

問題をどのように離振法に載せ込んでいくかと、ただ単に今の事業を、既存の事業を拡充するだけではなくて、今この離振の中に盛り込まないといけない問題というのを、そして国境離島ゆえの問題等々を今積み上げをやり始めているところでございます。恐らくこの会期中からもまた会議はあろうかと思えますけども、そのあたりの意見というものを十分にこの五、六月がまずもって第一段階目の勝負かなと思っておりますので、そこに反映をしていきたいと思っております。

私自身、2月24日に東京の方の離振法改正の検討会議の方に呼ばれて言っていました。そちらでも恐らく10数項目にわたって提案等もさせていただいたところでございます。電話でもまたその後、いろんなあれが出てくればどんどん全国離島振興協議会の方に情報を出してくれないかというお話もございまして、そちらにしっかり取り組んでいきたいというふうに思います。

○議長（作元 義文君） 14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） ありがとうございます。市長、3月3日に私公文書をいただきました。その中に、指摘と言えれば指摘です。小さいことかもしれませんが、非常に残念、対馬市長、松村良幸様と書いてありますが、このような文書が出ること自体がおかしいじゃないですか。

以上で、私の質問を終わります。十分緊張感を持ってやってください。

○議長（作元 義文君） 以上で、14番、糸瀬一彦君の質問は終わります。

.....

○議長（作元 義文君） 暫時、休憩します。午後は1時から開会します。

午前11時54分休憩

.....

午後1時00分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。黒田昭雄君、阿比留梅仁君から早退の届け出があつております。

10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 市民の声を活かすということで頑張っております10番議員の小宮教義でございます。私の持ち時間はたったの50分でございますので、よろしく願いいたします。

私の前にきょうは糸瀬議員が大変頑張られましたので、私はそれに続けるかどうかはちょっと疑問ですが、頑張らせていただきたいと思います。

私は、こういうふうな風貌でございますから、特にこの頭の色がこういう色をしておりますんで、よく市民の方から、小宮さんはもう70に近いかとよく言われるんですよ。いえ、違いま

すよと、私はまだ55歳ですからという話をするんですが、よくとまどうことがございます。

私は55歳でございますので、市民の方も御理解を賜りたいと思います。

去年のこの3月の定例議会、確か二、三日前に110年振りの大雪がございました。ことしはこの1月の下旬ごろですか、上対馬町の鰐浦でマイナス7.8という寒さを記録しております。何かこう対馬に異変が起きるんじゃないかというふうな気がしております。

異変と言えば、この中東、エジプト、そしてリビアが、皆さん御案内のとおり、反政府デモがあっております。まあこの日本の国も異変がございました。特にこの政治については何かこの国民を無視したような、政争に明け暮れているような気がいたします。どのように形容をしていいかわからないような状態でございます。

私の持論ではございますが、やはりこの既存の政党を1回解体をして、そしてやり直す以外に道がないんじゃないかというふうに、離島に住む一議員としては思いが深まるばかりでございます。

異変と言えば、先ほど話をしましたが、ではこの我が対馬ではどうなのか。市長さんは今3年過ぎましたからあと1年の任期でございますよね。この1年について、本議会の冒頭でこの施政方針説明をされておられます。この中にそれに対して振り返ってこのような話をしておられます。100年後の世代に自信を持って引き渡せるように、今この時期は市民と一緒に歯を食いしばって我慢をし、汗を流しますと訴えてまいりました。

また、過去から先延ばしにしてきた案件のうみを出し切ることに力を傾注しなければならなかった3年間だったとも言えます。そして市民の皆様に深い理解があったからこそ、一定の方向で1件ずつ解決をしてこられたと振り返っていますというふうな説明をなされました。

何の案件で1件ずつか、私には理解に苦しむところでございますが、しかし、ただ一つだけ、確実に出し切ったうみがございます。これは今まで市の職員の給与を5%カット、約2億円ですね、これを、うみを出し切った。つまり、カットを取りやめたという1点しか浮かばないわけでございます。そして、さらに私どものこの市の借金、借金については前の糸瀬議員もふれておりましたが、このようなくだりがございます。約526億円は他自治体の状況と比べるまでもなく、まだまだ明らかに突出した金額であり、減額のためには今後も起債発行額の抑制と、そして繰上償還を続ける以外には即効性のある対策はありませんというふうなお話をされております。

つまり、起債発行額の抑制と、それと繰上償還以外には方法がないんだというふうな結びになるわけでございますが、これしかないということであれば、先ほど申しました5%のうみ、カットの分ですね、このうみを再度つくってこの財源に充てて、そして財政再建を図る考えがあるのかどうかについてもお尋ねをいたします。

では、さきに通告しておりました4点について、市政一般質問をさせていただきます。

まず第1点の入札参加指名願いについてという点でございます。

対馬市の仕事をするには、土木、建築、それと測量関係の委託業務もでございます。そして物品関係もでございます。今のところは毎年毎年指名願いを出すわけでございますが、これを1年1年ではなくて2年に1回にすれば、この事務的な負担の軽減にもつながるわけでございますが、2年に1回というふうなことができないのかというのが第1点の質問でございます。

次に、第2点、新病院の建設について、これは命にかかわるものですから、島民の皆さんが非常に関心を寄せております。これについては、市長が、厳原の会場でございましたかね、突如として市民アンケートをとるというふうなお話をされました。このアンケートは何のためのアンケートなのかという点が2点目ですね。

そして、3点目でございますが、これは市の交付金事業についてでございます。これは、平成21年の2月の臨時議会で、生活対策臨時交付金を充てたものでございます。そして1,000万円の巨額を投じて予算化したわけでございますが、既に3年目を迎えているわけでございます。

この補助金の活用はようになったのか。いまだかつて耳にすることはございませんが、これはむだではなかったのかという点でございます。

これは、交付金関係でございますので、さきのきめ細かな交付金と同様に、市長部局の判断だろうと思っておりますので、市長部局より答弁をお願いをしたいと思います。

そして、4点目でございますが、この緊迫するこの対馬市の財政について、民間企業は人件費の100円でも200円でも抑えるのが非常に大変でございます。市においては12月に役員役職の解除をしておられます。そして新たに新しい部長級の方を上げておられます。

上げるということは、人件費の増になるわけでございますが、上げずしてその方を定年の3月まで仕事をすれば人件費の増にはつながらないわけでございますが、そしてそうすることによって、その職員も最後まで、3月の最後まで気持ちよく仕事ができるわけでございます。このような人件費の削減をするお考えはないのかという4点でございます。

答弁を求めます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 小宮議員の質問にお答えさせていただきます。

通告書の前の前段の部分でございますが、今のこの中東情勢が混とんとしておるということ等々で、ことし2月の24日に部長会議を開いていただきました。このままいくと恐らく燃油が高騰するであろうということで、これらについて想定される範囲をずっと各部ごとに抜き出しをまずして対応策を考えていこうじゃないかということで指示を出して、これについてはまた市全体として動き出しをしたいというふうには思っております。

恐らくこの燃油の問題は、よく言われることは恐らく市場価格で100ドルから200ドルと

いう範囲でこれから先推移をしていくんじゃないかというふうな話があります。まさしく、これこそ私どもが今推し進めていこうとしております木質バイオマス等にどんどん転換をしていかないと、この対応ができないんじゃないかというふうな思いでおります。

通告に、あとについては従って答弁をさせていただきます。

1点目の入札参加指名願いの御質問がございました。小宮議員御指摘のように、確かに現在の登録期間というものを単年度から複数年度にすれば相手方も私どもの担当も事務の軽減になるというのは、これはもう間違いないと思います。

しがしながら、公共工事の発注というものが経営の安定した企業に依頼すべきものであり、年を経るごとに経済がめまぐるしく変化をいたしておるこの今日、経営状況というものを的確に把握するためには登録有効期間というもののこの1年というものは適当ではないかというふうに思っております。

また毎年同時期に、この時期に申請受付を実施しておりますが、それでも申請漏れがあとを絶たないのが現状で、これを複数年にした場合、さらに増加するのではないかという危惧する部分も抱えております。

2点目に、新病院建設のアンケートのことでございますが、これにつきましては、もう御存じのように、1月17日の上対馬町を皮切りに6カ所で実施をしまいいりました。6地区での説明会で、全体で555名の出席をいただきましたが、こちらが想定していたよりも参加者が少なかったという考え方を、思いを持っております。

この住民説明会を各地で行っていく中で、新病院建設に対する市民への周知というものがまだまだ不足していると感じたところでもありました。

各地区の説明会でこの病院建設についてはいろいろな意見を伺ったところではありますが、厳原町会場で実施した折、説明会の終盤に御来場の市民の方からアンケート調査を行うべき、またアンケートを行うことが市民協働ではないかとの御意見がありました。このことにつきましては、その会場に御出席していただきました小宮議員も御承知のことだと思われま。

その席上で、私は期間は大変短いけども、ぜひこの機会に2つの病院が再編、統合しなければいけない必要性を市民の皆様にご知らせをすべきだと考え、さらに説明会の会場へお越しただけなかった皆様の御意見もあわせて伺いたいとの思いから、全世帯を対象にしたアンケートを行うよう、会場で表明をさせていただき、早速担当部署に指示をした次第であります。

アンケートの集計結果は、この3月のうちに場所の決定をしていかないといけないと思っておりますけども、その選考の際の材料の大きな一つになるというふうに思っております。

住民説明会での市民皆様からの御意見や御要望、さらに検討委員会での意見、そしてこのアンケート調査の結果等々を十分に参考とさせていただき、判断してまいりたいというふうに考えて

おります。

次に、平成21年2月に予算化をしましたミュージカルの交付金事業の件についての御質問がございましたが、この「対馬物語」制作の経緯については、平成13年2月に巖原町体育館でミュージカル「つばめ」を、そして平成20年10月に交流センターで「天草四郎」の公演を行ってきたところであり、この2回の公演が非常に好評であったことと、対馬には歴史という資源が多いので、これらを題材としたオリジナルのミュージカルを制作、公演しようという思いにいたり、21年2月の、先ほどおっしゃられました国の地域活性化交付金事業を活用して予算をお願いをし、脚本制作費を文化協会への委託事業として議決いただいたところでもあります。

平成22年、1年後ですね、3月、対馬市文化協会ではジェームス三木先生にプロの劇団用と市民劇団用の2つの脚本を制作依頼し、その引き渡しを受けてから丸一年が経とうとしております。この脚本内容は、宗義智公の花嫁マリア様のお輿入れに始まり、文禄・慶長の役、朝鮮国との国交修復、朝鮮通信使等、困難な時代を乗り切った背景を描いた物語であります。プロの劇団わらび座で、対馬を皮切りに全国6カ所ほど公演をした場合、3カ月の期間を要することとなり、劇団への経費として6,000万円から7,000万円必要となっております。今の市の状況を考えたとき、慎重にまずならざるを得ないと思っております。

よって、対馬市文化協会としては、対馬市民劇団を立ち上げ、対馬の歴史、偉人、神話、民話を題材とした演劇を通じて対馬島民の皆さんに再認識していただき、また次世代を担う子供たちに引き継ぐための一つの手法として、さらには島外にも発信して、対馬の豊富な資源を活用していただきたく、活性化のお手伝いをしたいと、去る2月27日に美津島町尾崎地区に伝えられる物語の旗揚げ公演が交流センターにて実施されたところでございます。

今後におきましては年1回程度、対馬の歴史、偉人、神話、民話等をベースにした公演をしていく予定でございます。

ちなみに2月27日当日の入場者は約500人で、会場にて行ったアンケートの結果によりますと、回答数が328人ありましたけれども、301人の方から高い評価を得たところでございます。

今、市民は文化に非常に興味を抱いているようにも感じられます。今後、対馬市といたしましても、対馬の文化はよその土地にないオンリーワンの特異な文化です。それはこの国境という位置が育んできた歴史という資源です。この特異な文化も前面に押し出して対馬を発信していきたいと考えております。

ちなみにこの旗揚げ公演の様子は、対馬市ケーブルテレビにおいて放送が予定されているところでございます。議員の皆さんもごらんいただきたいと思います。

また、ことしの11月に朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流大会がこの対馬で開催されます。そ

の中で、ジェームス三木先生の対馬物語の市民劇団版を公演計画をされており、来島される方々へのアピールできる絶好の機会と考えております。

今後とも対馬市といたしましてもプロの劇団で全国公演が早くできるよう努力をしてみたいと思いますので、御理解をいただきたいと思います。

小宮議員さんの質問の中に、むだではないかという意見がございました。若干そこには見解の相違が私との間にはあろうかなというふうに思います。

ちなみに昔からの言い伝えに、田舎の勉強より京の昼寝というふうなことわざがございますが、京の文化の高さをこれはあらわしていますが、逆から見ると、文化のないところには芸術のみならず産業も育たない、育つことなく発展もしないという意味を内包しているのではないかとこのように思います。

地域文化が豊かになればなるほど地域の魅力は高まるものとの信念のもとで、ことに当たっていきたいというふうに考えております。

次に、人事異動の関連でございます。これにつきましては、限られた人員と財源の中で、より効率的で効果的に住民サービスを提供し、スムーズな行政運営を行うことを目的に実施しているところであり、それぞれの部署の意向や現状を精査して行っているところでもあります。

その中でも議員が指摘されました1月の人事異動については早期退職者や3月の定年退職者等との関係もあり、異動規模としては限られたものになっております。

平成22年度は早期退職者が6月に2名、9月に1名、11月に1名、12月に3名の計7名、そして今年度末に定年前早期退職を予定されている職員が5名、定年退職の予定者が16名で、今年度中、退職をした職員は合計で24名でございます。

部長職の職員についても一般職同様に毎年数名の部長職の職員が定年を待たずして年末の12月に早期退職されているのが実情でございます。

部長職や理事の職務については、それぞれの部局の業務を掌握することはもちろんのこと、所属職員の指揮監督、部局内の業務の検討や企画立案など各種業務の決定や指揮監督など予想されます。

また、当面する諸課題に対応するため特化した業務を担当させるための理事を配置することもございますが、いずれにしましても3月末で定年退職を迎える部長等については後任部長の職務を補完し、新年度の円滑な業務運営を図っていくため、年度末までの間理事として職務を命じているところでございます。

御理解をいただければと思います。よろしく願いいたします。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 1番目の、この入札指名のやつなんですけど、先ほどの答弁です

と、その経営状況とか、もし頼むとすればその企業の安定がどれだけあるのかは把握はできないといけないというお話。だから、できないので今のところは毎年毎年の更新にしたいというお考えですね。

この長崎県ですね、13市あるんですが、対馬を省くと12市ございますが、この12市の中でこのように私が申しました、2年に1回というふうな状況の市もあろうかと思いますが、そのような市の状況はどのように把握しておられますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私、他市の状況については把握をしておりません。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） せっかくこうして一般質問をするわけですから、ほかの市町村がどうあるかは、やはりそのインターネットもございますし、調べて、その内容に入るのはわかるわけですから、その辺の把握ぐらいはぜひしていただきたいと思いますね。

私が調べたら、実際に調べて実際にお電話したりしてきたんですが、先ほど指摘された、確かに経営状況がわからないという点もございます。しかし、私が調べて、諫早もそうです、大村も松浦もほかにもあるんですが、ほとんどのところが、ほとんどというか、さっき言ったところは2年に1回なんです。そして、先ほど市長が疑問点とされる経営状況はどうなのかということについてもお問い合わせしました。

そうすると、それについてはいまだかつて支障はないと。なぜないのですかというお尋ねをしたら、複数の市にですよ。そうすると、経営的なものは県が1回、年に1回ですね、経営審査をするんですよ。その資料があるからこれに基づいて毎年度毎年度していくと。

だから、県の経営審査資料によってするから、これに対しての問題点は発生をしたこともないというお話なんですが、その辺はどうでしょうかね。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 他市の状況を把握しないまま答弁に立っておりまして申しわけなく思っております。

今おっしゃられた、教えていただきました他市の状況等々について、それだけで、人に委ねるだけでそれでよいものかどうかというのがちょっと若干疑問も感じますが、今、小宮議員がおっしゃられるように、当然、冒頭言いましたように、これはお互いにとって軽減につながることであろうかと思えます。そういう中で事務がスムーズに進むかどうかの検討はしていきたいと思えます。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） というのは、今この指名願いとというのは、以前は郵送もござい

ましたが、今は持参になつとるんですよね。そうすると、比田勝の方からこっちまで来るのにも1日の仕事になるんですよ。来て帰るのがですね。

そういった意味でもやはり小さい業者がたくさんおるわけですから、そういう方のためにも軽減することによって、そして市の方の事務的なものも減るわけですから、検討と言わず、私がずっと調べた段階においては十分できると思いますし、ほかのところもやっているわけですから、これは検討課題じゃなくてももう実行課題としてぜひ取り組んでいただきたいと思います。

それと、この新病院建設でございますが、いろいろと私も市民の声をたくさん聞くわけですね。その中で、まず事前にちょっと確認したい事項が4点ほどございます。まず1点がこの建設場所は、私の記憶しておるところでは2月中旬までにあらかたのものができて、そして3月の議会には報告、当初になるのか後になるかはわかりませんが、基本的には3月の当初というのが私の認識しておるところであったんですが、じゃあこの建設場所の決定というのは、いつごろになるのか、決定というのがですね。この議会中かもしれませんが、いつごろになるのか。

そして、当初、3月のこの議会の冒頭だというふうな認識をしておったんですが、それがなぜこうちょっとずれたのかという点ですね。

それと、2点目が、この市民アンケートは25日で締めでしたよね。今のアンケート状況、その回収率と申しますか、何パーセントぐらいあるのかということですね。

そしてそのアンケートの、これ3点目ですが、アンケートの内容の分析がどの辺まで進んでおるのかということですね。

それで4点目がですね、これ確認事項ですけども、4点目が、こうしてとったアンケートを公に公開をするのか、まずその4点の確認事項をお願いしたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この決定につきましては、新病院のタイムスケジュールを逆算したときに、この3月中に決定を見たいというふうに今までも言ってきました。

若干、アンケートの兼ね合い等々でずれ込んでおりますけども、この会期中には皆さんに、市民に向かってお話をしたいというふうに思っております。

2点目の何通回収したのかというお話でした。アンケートの郵送とか手渡し等もございますけども、1万5,488通、1万5,488通発送をしております。そのうち2月28日で7,089通、で46.13%の回収を見ております。

ただいまその分析作業を担当課の方で今進めております。さまざまな分析の仕方をしないといけないというふうに思っております。それらを踏まえて考えていきたいと思っております。

またその分析結果と言いますか、それについては当然のことながら、これは公開をしていく予定であります。



○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） この病院問題については本当にじかに市民の方の声をよく聞くんですよ。その中で、これは市民の声なんですけど、私は市民の声を活かすという立場ですから、市民の声として何点かお聞きしますが、今回のアンケートは市民の中からこの不満解消と言いますか、ガス抜きではないかというふうな、よくガス対策じゃないかという話も聞くんですが、その点はどうぞございますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 市民の方からそういう発言が出ているということでございますが、あくまでも冒頭の答弁で申し上げましたように、厳原会場において会場の中からそのような発言が出て、そうですねと、555の住民説明会のサンプル数では当然少ないですねと、ならば皆さんがおっしゃられるようにアンケートをしましょうということで、そのとき急に決まったものでありまして、当然こちらとしてはそのようなガス抜きとかいうふうなことは毛頭想定はしておりません。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） じゃあ急に決まったことであり、ガス抜きではないということですね。

それと、これはよく聞くんですけど、どうせアンケートをとるならば、今の病院、いつはら病院、そして中対馬病院、今の病院を建て替えずに、今の現状のままで行った方がいいのではないかと、またはそうではないと、どうせアンケートをとるならば、そこのところもとっていただきたいかったという話もありますが、その分はどうでしょうかね。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 小宮議員がおっしゃられたのは、いつはら病院の増築案のことですかね。

○議員（10番 小宮 教義君） いやいや、新病院が今のいつはら病院と中対馬の病院の今の現状のままでいいのではないかと。

○市長（財部 能成君） 現状のまま。これについては、各6カ所の会場でも申し上げてきましたけども、今のままで建物としては、仮にいつはら病院の方は地盤等の問題がございませんので、まだ使えると思います。ところがそれぞれの場所で存続をしていくということは、あの規模では、医者ですね、医者の確保が、これがままならないということで、その規模を大きくして診療科目に使えるお医者さんの数を増やすような病院をつくらないとだめなんだということはずっと病院企業団の方も以前の説明会でも説明をしたと思うんですけども、確かに施設そのものだけを見れば、今のままで存続できるんじゃないかなというふうな思いを持たれるのは当然だと思います。しかし、今のままでは医者が集まらないと。医者のいないところで病院経営というのは成り立た

ないというふうな基本に立ち返っていただければというふうに思います。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） というのは、アンケートをとらなかったのは、この分についてですね、今の病院のままでいいのかというのは、医者不足を考えるとそういうことがそもそも入ってなかったからということによろしいですね。

それですね、もう一点市民の声があるんですよ。これはよく聞くんですが、今候補地は4つございますけれども、そして巖原の候補地、白土の分、小浦の分、これについてはその候補地に決める前に、白土と決める前にそこいらの地権者に、土地の持ち主に事前にその説明などをしなかったのではないかと。勝手にその土地に自分たちの絵をかいてしたのではないかと、それはおかしいじゃないかということでございますが、その分はどうなんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 事前に説明をしなかったのがおかしいではないかというふうな話がありました。少なくともこのあたりということで、計画を概略計画として上げさせていただいているわけでありまして、その前にその方と交渉をしますか、事前に話をするというのはいかななものかと思って、全く交渉はしておりません。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 交渉はしてないということですよ、事前に。ただ、よく考えていただかねばいかんのは、その場所は、もし決めるとすれば、候補地にですね、決めるとすればその人たちの同意も当然いるわけですよ。事前に行って候補地を選んだ時点で、事前に行ってそしてあらかじめ話をして、もしそこに決まれば協力をお願いしますとか、そういう打診がなければその土地の持ち主は、立場を逆にすればわかると思いますが、私の全く知らないところで話が進んで、仮に決まったとしても承諾をしないよというふうな事態も発生するわけですよ。そういうところまで考えての候補地だったんですか。これは私の分ですね。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 説明会が終わりましてから、それから担当の方がその地権者の方に説明に上がったということです。その中で、そのような、心の中にはそのようにお持ちかもしれませんが、そのようなお話は出てないというふうにも聞いておりますけども。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） じゃあ6会場説明が終わった後に行かれたんですか、その本人のところ。そういうのはやっぱり事前にせんといかんと思いますよ。そして、今度は私の話になります。先ほどそのアンケートは突然のアンケートだという話ですよ。ただ、この検討委員会があるわけですから、仮にアンケートをとるとしても検討委員会で検討してアンケートをと

ればもっとこの密に、そのアンケートの内容も精査できたと思うんですよ。

ということは、このアンケートをとったということは、検討委員会にも諮らずに、先ほどの話ですと自分が決めたということによろしいんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 日付は覚えておりませんが、アンケートの内容等々につきましては、検討委員会の中にも一応諮っております。その後に発送をするというふうな段取りでおります。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） そのアンケートは市長が単独で決めたということによろしいんですよ。いやいや、そのするという行為についてはですよ、ですよ。それでお尋ねしますが、このアンケートに係る費用があるわけですが、これはどういうところからの捻出になるんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） これについては急なことでありまして、時間等がありませんので、予備費を使わせていただいた次第です。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 予備費を充当ということによろしいんですよ。その充当した金額はどのぐらいなんですか。ちなみに、充当ですから、これはその条例等もございまして、充当の伺い書も作成しなければいけません、その中でその充当金額とそれを初めて作った起票日と言いますか、何月何日に作成したのか。

これはその条例で決まっているんですよ、こういうふうな様式があるわけですからね。それと、この整理番号は何番なのか、これについて。

これは財務規則でぴしゃっと決まっていますよ、こういう予備費の充用については。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 起票日等々については今ここで資料を持ち合わせておりません。今からでも取り寄せたいと思います。それでよろしいでしょうか。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） これ予備費の充当なんですよ。これは当然のごとくほかにも条例がある、18条関係があるんですが、それによって決裁をされてからの予算づけになっているんですよ。当然手元にあるんじゃないですか。大事なもんですよ、これは。条例化されてるものですから。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。

午後1時44分休憩

午後1時47分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） どうも失礼しました。このアンケート調査にかかわる通信運搬費の予備費充用について伺いが2月の7日にまわってきております。そこで決裁をして物事が動き始めたという次第であります。

これは、この段階においては総世帯数掛けることの回収率を60%でまず見込んで260万円ぐらいを充用額として伺いをとっているということです。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 予備費を約260万円、約300万円を使っておるわけですね。それも突然の思いつきですね。そうじゃないですか、さっき思いつきと言われたんだから。どうせね、どうせそのアンケートをとるならば、アンケートをとるならばその検討委員会で検討をして、そして早い時期にアンケートをとっておれば決定時期もずれ込まなくても済むわけですよ。これは手法が間違っていると思うんですけどね。手段が、間違っていると思いませんか。逆ですよ。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 検討委員会においても論議が三、四回されまして、その中である一定の方向性というのが出てくるかなというふうにも思っておりましたけれども、当然それはさまざまな市民の意見も聞く機会も委員さんもございますので、それらを踏まえて意見が出てきて、そこで集約、ある程度の集約ができるかなと思っておりましたけれども、なかなかそこには検討委員会でも立ち入ることは難しいということで、アンケート調査の論議がその1回目から終わるまでされたのかどうかは、してみようという話が出てきたかどうかは聞いておりませんが、最終的にはこういうアンケートの御意見が出、そしてそれをこのような形で形にしてみたいということを検討委員会にお諮りし、そういう方向ではいいんじゃないかというふうな決定をいただき、アンケート調査にいたったというふうに御理解ください。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） アンケート調査で場所が4つぐらいあるんですが、そしてもし候補地が1、2、2つ選ぶことになってますが、そのアンケート調査で候補地の位置が確定した時点で、それをその結果的にどう受け入れていくのか。極端に言うと、ただのアンケートはアンケートだけであったのか、その辺の考えはどうなんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど申し上げましたように、アンケートの結果というもの、それから検討委員会において出された意見、それから市民の皆様からもさまざまな意見を聞く場面もありましたが、そしてさらには今の病院に通ってある市民の方々の負担をどのように平等化するかとかいうふうな考え方等々、さまざまな視点に立って物事を決めていきたいというふうに思っております。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） ということは、今回のアンケートは参考資料の一部にしか過ぎないという解釈でよろしいんですね。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 絶対条件ではありません。

○議長（作元 義文君） 10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） わかりました。それで、次の、時間がありませんからね。

このミュージカル、1,000万円も使ったミュージカルですね。大変な、立派なミュージカルだと思うんですが、こっちの方ですかね。このミュージカルの目的なんですけど、時間ございませんから私の方からさきに話しますが、このミュージカルの目的は私がこの予算のときにお話したんですが、そのときは今は亡き河合教育長の答弁でございますが、目的としては、わらび座ですね、劇団わらび座にするんだと、そして効果的な対馬の観光を、対馬をよく知ってもらおうというふうな答弁なんですよ。目的はわらび座にさせてそして全国公演をしてもらおうというお話なんですよ、目的は。

ということは、先ほどの市長のお話ですと、このミュージカルは市民の側とそれと全体の分があるということでしたね、わらび座の分が、ですよ。では、こういう予算を組むときに、ミュージカルのこの1,000万円を組むときに、当然のごとくわらび座関係の話もされたでしょう。予算を組むときはその予算がいかにか効果的にできるかということは、わらび座に係る費用、それも踏まえて、当初から、予算を組むときから組み立てるのが常識なんです。それが予算を活かす方法なんです。そのわらび座関係にも、その予算は先ほど6,000万円、7,000万円かかると言われてましたが、そういうことを全く考慮なしに、ただ単に1,000万円を脚本として出したんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 確かに六、七千万円の捻出はどのように考えてこの1,000万円を出したのかということでございますが、当時、2,500万円とか3,000万円とかいうさまざまな別の運営に関して3カ年間するとか、いろんな国のことも考えもいたしました。

で、そういうのを活用もできないかとも考えましたけども、まずもって市民劇団用、それから

プロ劇団用の脚本をいただけるということでしたので、市民劇団がさらに今回のいただける脚本によって市民劇団の発足が早まり、さらに活動が活発化していくというふうに考えております。

この1,000万円が私は決してむだというふうに思っておりませんし、この脚本は対馬物語ということで、対馬を題材にして当然まだ今後も存在はしていくわけですし、その六、七千万円の捻出をする方法を考えながら、対馬がこのようなオンリーワンの島であるという部分を明確に日本中に打ち出す方法としては、財産になるものというふうに考えております。

○議長（作元 義文君） 時間になりましたので……

○議員（10番 小宮 教義君） 最後ですね。予算というのをさっきから何度も言いますが、その結果までを見ての予算を組まなきゃいけないんですよ。先ほどの話ですと、今のところは市民劇団だけで終わります、これは。予算づけはされないんだから。そういうその予算の組み方、何て言いますか、全体的なものを見て、ただそのときだけを予算を組むというのではなくて、やはりどれだけかかるんだからこれだけの経費を見てから組むというふうなことをして組めば、この1,000万円はほかにも使えるわけですよ、いくらでも。そういう組み方に疑問を抱きませんか、自分自身が。

回答で終わります。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 財産を取得する手法としては、私は文化を、そしてそこで芽生えさせていくためには、大切なこれはものになるというふうに思っております。決してむだ遣いというふうな考えでおりませんし、そこは見解の相違だろうと思います。

○議員（10番 小宮 教義君） はい、全くむだでございます。

○議長（作元 義文君） これで10番議員の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。再開を、2時10分から再開します。

午後1時56分休憩

午後2時09分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。次に、1番、脇本啓喜君。

○議員（1番 脇本 啓喜君） こんにちは。会派清風会の脇本です。通告した2点について質問をいたします。

1番、海岸漂着ごみ対策について、（1）地域グリーンニューディール基金を活用した取り組みについて、①回収計画策定までの経緯について、最終的には、対馬全域を漁業集落単位で区切り、おのおの漁業集落のみと契約をした経緯について答弁を求めます。②予算の執行状況及び